

シリーズ 三郷学

〈三郷学の視点⑳〉

三郷学の視点

12. 見え消しの議論でスピード感のあるまちづくり 〈ワークショップ〉

見え消しの議論でスピード感のあるまちづくりを進める手法の一つに「ワークショップ」があります。三郷市においても、各種団体や市の主催によるワークショップが多く開かれています。

多くの場合、ワークショップは、参加者相互の学び合いの機会も含め、学習プロセスに重きをおきます。そのため、一定の期間を設けて連続的に複数回開催されることも多くあります。また、まちづくりの一環として行われる「まち歩きワークショップ」では、地域の問題点を自分の目で確認したり、地域の良い点を発見



高齢者疑似体験

したりします。

ワークショップでは、実際に手や体を動かしながら作業することで、場の雰囲気が和やかになり、参加者間での連帯感が醸成されることとなります。そして、これらのことを通じて、三郷

への愛着が深まり、市民意識が深まります。

〈ワークショップの手法(例)〉

- **模擬体験・疑似体験**…学習テーマに沿って現実の一部を想定・体験し、より現実的に学ぶことができる手法。(例)アイマスク体験、車椅子体験、高齢者体験など
- **ロールプレイ(役割劇)**…参加者が模擬的に演じることによって学習テーマに迫ることができる手法。
- **ブレインストーミング(発想法)**…参加者は、人の考えを批判しない、思いっただけ考えを出す、単語や簡潔な文章で示すなどのルールを守りながらアイデアをたくさん出す手法。
- **KJ法(分類法)**…ブレインストーミングによって出されたアイデア、収集したデータや情報を、参加者で討議して共通すると思われるテーマごとに分類し、整理することができる手法。